

東日本ユニオン組織の強化と拡大に向け 職場からの取り組みを明るく創り出そう!

前向きで明るい春闘を全組合員で創り出そう!

JR東日本労働組合新潟地方本部
星山執行委員長あいさつ

今年も大雪に悩まされた。地方本部として各支部、設備の仲間は極寒の中で分会と連絡体制をとり状況把握に努めてきた。

新潟地方本部は2月27日、新潟東映ホテルにおいて「第8回定期地方委員会」を開催しました。
新型コロナウイルスへの感染拡大防止に努めた中で開催し、向こう半年間の活動方針を満場一致で確認しました。

連日の除雪、障害復旧で設備の仲間は極寒の中で鉄道運行の確保に心身共に消耗したと思う。寝ずに奮闘した指令員を担う仲間、駅間停車で何時間もお客さま対応をした仲間、全ての系統で語りきれない苦労や問題があった。災害だから仕方ないで済ませない。今冬の検証を行い、提言、歯止め、改善に取り組んでいく。

2022春闘について第9回定期中央委員会要求を決定し、2月17日に申22号を申し入れた。

昨年の前代未聞の定期昇給係数2により、生涯賃金が大きく影響を受けた中で迎える今春闘となる。年頭から経営側は会長や社長がマスコミに露出し「賃上げは難しい」と述べ、ネガティブな世論形成を行った。労働組合への先制パンチとも受け取れる。本部での要求案決定までの議論では、ベア要求を求める強い意見もあったと聞いている。

会社の経営状況を理性と聞いている。春闘コンテストは、分会的に分析して心にマग्マを持ちつつ、私たちの生涯に関わる昇給係数4を当たり前の物にしていくということ、黒字化を実現した時には失われた係数2を必ず奪い返すという意気込みがある要求だ。

特別加給を行わないことと、第二基本給廃止も要求している。黒字化に向けて全社員が奮闘している中で、格差をつけることを許さないという職場世論創りも課題だ。

厳しい経営状況下、経営陣によってネガティブな職場世論も日々作られている。厳しいからと下を向くのではなく、労働組合として前を向いて取り組みを進めるために「明るい春闘」を創り出そう。

全員参加の団結力は要求実現に重要な要素だ。昨年の係数2が悔しかった、許せなかったという想いをプラスして、明るく前向きに取り組もう。

12名の地方委員が職場でのたたかいを発言
来賓として、中央本部の阿部業務部長にご挨拶をいただきました。

12月からの降雪で上越線はほぼ動いていない。人が足りないのか除雪能力不足なのか、安全安定輸送の観点で検証しよう。

2022春闘は、ベア要求を行わない決断をした。様々な声があったからこそ4係数を守るというたたかいができる。4係数を勝ち取っていく。

現実機関における柔軟な働き方の実現として、新潟支社では社内統括センターが発足する。交渉により行くか明確になっていないことが明確になった。経営側は働きがいや活躍フィールドが拡大するとしてポジティブに打ち出し、複数業務を担う事で安全やサービスが向上すると団体交渉でも明言している。

企業活動の点検について、赤字下における無駄はないかという視点で組合員の皆さんと点検し、申し入れも含めて問題を明るみにしていきたい。

変革2027に基づき「現実機関における柔軟な働き方の実現」や組織の再編などが打ち出された。3月12日にはスタートしようとしているが、この施策をどう具体的に進め

会社側は「安全がトッププライオリティ」と口ぐちに言うが、コストダウンの前に安全が二の次にされていないか? 本場にトッブになっているのか? ということに対して、労働組合としてチェック機能を発揮していこう。

拡大に取り組もう。2022春闘コンテストは誰でも参加ができる。取り組みを大きく広げて明るく運動を創り出していこう。

質疑では12名の地方委員から発言を受けました。2022春闘の取り組み、安全議論、職場環境の改善に向けた取り組み、現実機関における柔軟な働き方の実現をはじめとする会社施策に対する取り組みなど、いずれも職場からのたたかいに根差した教訓に富んだ内容でした。

活動方針案や暫定予算案など、執行部が提案した議案は全て満場一致で承認されました。

